

表紙解説

ひょうそん きりやく  
**これが人気の『漂異紀畧』です。**

テレビや出版物、そして全国の展示会で使われています。



本書は土佐の絵師である河田小龍<sup>かわだしょうりゅう</sup>が、アメリカから戻った漂流者のジョン（中浜）・万次郎を取り調べて書き上げた漂流記です。この書物が完成したのは嘉永五（1852）年で、アメリカのペリー提督が浦賀へ来航する前年でした。元々、博学で「新知識」とも評されていた小龍は万次郎から得た海外情報によって、文字通りこの時期の土佐を代表する知識人になりました。小龍の持っていた知識と情報は、彼を頼った年若い坂本龍馬に大きな影響を与えることとなります。



写真提供した出版物

この『漂異紀畧』は、印刷や刊行されることはなく写本として流布したもので、本学図書館が所蔵しているものは全四巻からなっており数少ない完全写本とみなされています。このようなことから、昨年より今年にかけて多くの出版物やテレビで写真が使われ、現在は東京、京都、高知、長崎の博物館や資料館が順次開催する展示会（「2010年NHK大河ドラマ特別展 龍馬伝」で、6月19日から7月19日まで京都文化博物館で開催中）に出展されています。

本学図書館は学外の文化活動や展示会を応援しています。